

# 自立のための 行財政シミュレーション



も く じ

- P 1 はじめに・町財政の状況
- P 2 独自シミュレーションの基本的な考え方
- P 5 独自シミュレーションの設定条件
- P 7 独自シミュレーションの結果について
- P 10 2町合併の場合について・最後に

上 士 幌 町

# はじめに

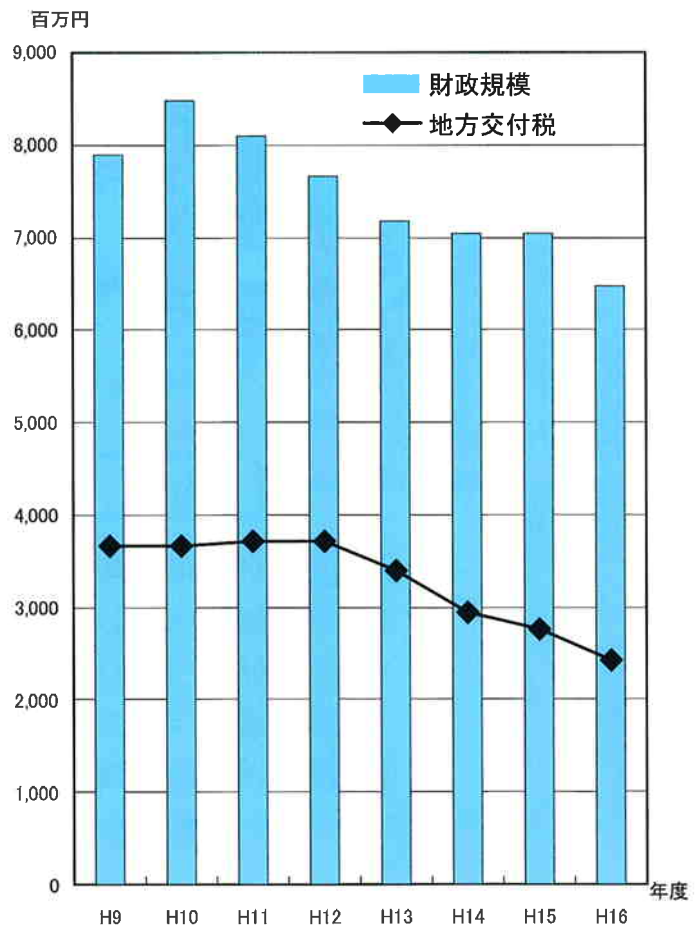
今、全国の市町村では、合併等まちづくりのあり方を議論しています。本町としても土幌村から分村した昭和6年から70有余年ぶりに町の将来を左右する重大な問題について土幌町と協議を重ねています。

土幌町との間では、合併や広域行政などによる行財政の将来の見通しを作成し、同時に本町独自に自立のためのシミュレーション（以下「独自シミュレーション」）を作りました。

今日の上土幌町を創ってきた先人の思いを踏まえつつ、私たちは共に協力し合い、後の人々に誇りと愛着の持てる町を引き継ぐために「どの道を選択するか」「上土幌町の未来がどうあるべきか」町民のみなさんが判断する参考資料としていただければ幸いです。

## 1 町財政の現況

本町の普通会計の予算規模は約63億円（平成16年度当初予算）で、歳入総額の約40%が地方交付税です。右の表にあるとおり、ここ数年、地方交付税は国の政策により大幅に減少しており、平成11年度と比較して約13億円の減額となっています。そのため、大変に厳しい行財政運営を強いられています。



## ② 独自シミュレーションの基本的な考え方

独自シミュレーションの基礎数値は「平成14年度決算額」「平成15年度決算見込み額」「平成16年度当初予算額」を用いています。

特に、収入の大部分を占める地方交付税は三位一体改革などで先行き不透明な状況にありますが、現在わかり得る「直近のデータや情報」を使って推計しました。

■推計期間 平成16年度～平成32年度 17年間

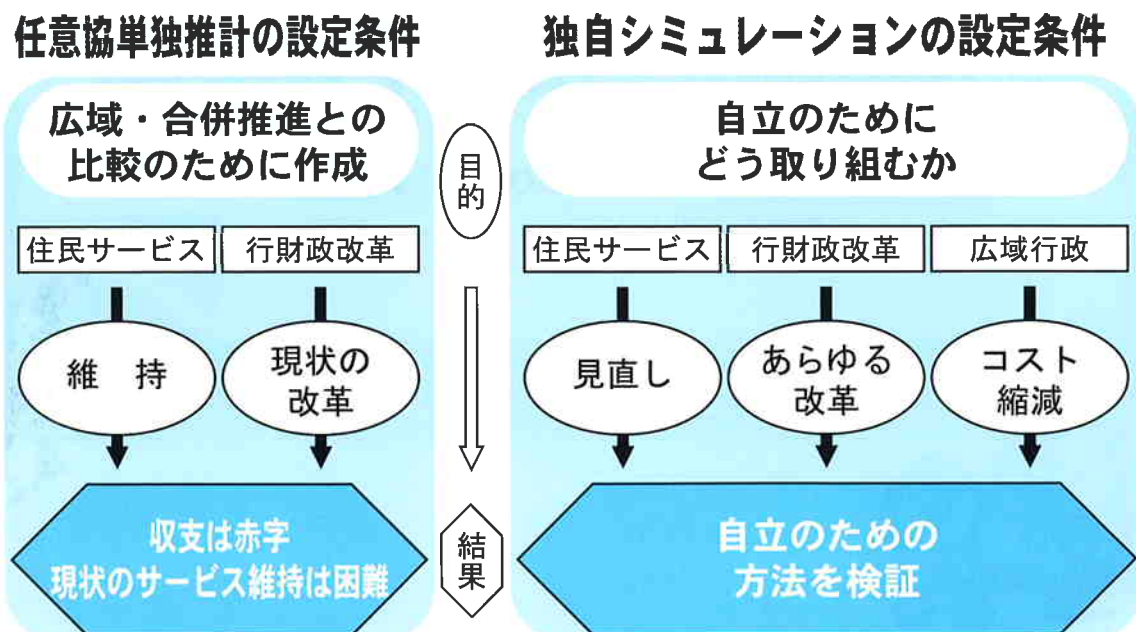
### (1) 独自シミュレーションの目的と考え方

この独自シミュレーションは、現在進めている行財政改革大綱や事務事業アセスメント効果はもちろん、今後取り組むことになる次の条件も見込んでいます。

- ① 隣接する町との広域行政効果
- ② 公共施設の管理運営方法見直しによる節減効果
- ③ 公共サービス料金の受益と負担の見直しによる効果

従って、土幌町・上土幌町任意合併協議会が推計に使用した設定条件とは大きく違ってきます。違いは次の図をご覧ください。

### 設定条件の違い



## (2) 独自シミュレーションにおける取り組み

将来にわたり、町民一人ひとりが豊かさと安らぎを実感するためには、日々の生活の拠点である地域社会が住みやすく、活力に満ちたものでなくてはなりません。

その実現のためには、現在取り組んでいる「町民と行政の協働」によるまちづくりを今以上に発展させる必要があります。行政は更なる「スリム化」をめざし、住民はまちづくりに対して「積極的に参加」することが必要になります。

町は次のような自助努力の基本姿勢をさらに進めることとなります。

### ■行政運営の基本姿勢■

- 自らの財政基盤の確立に努め、町の潜在力（人や資源）を生かして「自己決定・自己責任」による独自のまちづくりを進めます。

### ■自助・共助・協働を推進■

- 町民、地域、企業、行政が補完性の原則に基づき、役割分担を図ります。

#### 「自助・共助・協働」

『住民自身やコミュニティなど小さな単位でできることは、行政が介入せず住民や地域等に任せ（自助・共助）、小さな単位では解決できない、若しくは非効率なものを行政が行う（協働・公助）』という補完性の原則でまちづくりを推進します。住民を中心に据えた考え方です。

- 具体例：ボランティア、NPO活動、アダプトプログラム、町内会活動など







## ■地場産業の育成■

- 新規産業の開拓、誘致（雇用の創出、人口定着）に取り組みます。
  - 既存産業の振興に取り組みます。
  - NPO法人の積極的な活用を図ります。
- …など

## ■行財政改革■

★既に、収入役の未配置、職員不補充（H13比△20名）、職員給与の削減、スタッフ制の導入、各種委員会・審議会の見直し等を実施してきました。

### —今後の取り組み—

次に例示する事項などについて検討を進め実践していきます。

- 経常的経費の見直し（人件費、物件費の削減）
  - 負担金、補助金の見直し
  - 議員定数の見直し
  - 使用料、手数料の見直し（受益者負担の適正化）
  - 公共施設の管理運営の効率化（民間・地域・団体による管理運営など）
  - 公共サービスの協働（ボランティアやNPO等との連携）
  - 事務事業の効率化のため、広域行政の積極的な取り組み
- …など

## (3) 町が目指す将来像

環境の浄化など  
多面的な機能を持つ  
森林資源が活かされているまち

ナイトイ、農村景観  
糠平・十勝三股を核に  
観光産業が活発なまち

お互いが助け合い  
協働するまち

農業が栄え  
心豊かな農村のまち

都市との交流が活発で  
にぎわいのあるまち



### ③ 独自シミュレーションの設定条件

前提条件は次の内容で推計しています。

- 人口については(財)統計情報研究開発センター「市町村将来推計人口」を使用しました。
- 普通会計における推計としました。
- 財政の金額の基本数値は平成14年度決算、平成15年度決算見込み額、平成16年度当初予算を使用しました。
- 推計期間は平成32年度までとしました。
- 広域行政・行財政改革による効果は、平成20年度～平成29年度の10年間で段階的に行なうこととしました。
- 基金は特定目的基金を含めて推計しました。

## 収 入

収入の主な設定条件は次のとおりです。

項 目	独自シミュレーションの設定条件	任意合併協議会 単独推計の設定条件
地方交付税	平成32年度に平成14年度比で約42%減としました	平成32年度に平成14年度比約30%減としています
その他歳入	<p>公共料金等については、受益と負担のあり方を見直すこととし、それによる収入増を見込むこととしました</p> <p>—見直しの基本的な内容—</p> <p>①管内平均以下の公共料金を対象とする</p> <p>②社会的に有料化の傾向にある公共料金の新設</p> <p>③公共料金の減免規定を見直しをする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成14年度決算額と同額で推移としています</li> <li>・見直しは含まれていません</li> </ul>

## 支 出

支出の主な設定条件は次のとおりです。

項 目	独自シミュレーションの設定条件	任意合併協議会 単独推計の設定条件
人 件 費	<p>■一般職 職員数の削減や給与の見直しにより人件費総枠の削減を図ることとし、平成32年度には平成14年度比約45%減としています 住民とのまちづくりに関する協働の進捗度や今後の雇用形態の動向に大きく左右されることから、目標の設定としています</p>	平成32年度には平成14年度比で約30%減としています
	<p>■特別職・職員 ①特別職については、広域連携（教育委員会）や収入役の未配置、報酬の見直し等により減額しています ②議員については、平成32年度には8人（△8）と想定し減額しています</p>	現状維持としています
	<p>■その他の委員 各種委員会報酬の見直しや統廃合により減額しています</p>	
物 件 費 維持補修費	<p>平成20年～29年までの10年間で公共施設等の運営見直しや広域連携を図ることとし均等に減額しています</p> <p>—見直しの基本的な内容— ①公共施設の直営方式から地域管理や民営化への移行、統合・閉鎖 ②広域連携の推進 ③臨時職員の削減 ④委託料等の見直し</p>	見直しは含まれていません

## 4 独自シミュレーションの結果について

### (1) 独自シミュレーションの結果

独自シミュレーションでは、平成16年度～平成19年度について、地方交付税制度の見直しによる収入の大幅な減額を想定し推計しています。そのため、使用料・手数料の見直しによる収入の確保や、職員人件費の抑制、特別職報酬・議員定数の見直し、公共施設の見直し、広域行政による効率化などにより支出の抑制を行うこととしています。

その結果、平成24年度まで基金（貯金）の取り崩しにより対応することとなりますが、それ以降は収支がプラスとなり、基金（貯金）に積むことが可能となります。平成32年度における基金残高は、約26億円となります。

ちなみに、平成32年度の独自シミュレーションの財政規模は、本町の昭和60年度（収入39億700万円、地方交付税16億3,560万円）とほぼ同額です。

#### ◆独自シミュレーション推移

単位：百万円

年度	人口 (人)	収入						合計	基金 (貯金) 残高
		地方税	地方 交付税	その他 一般 税	国・道 支出金	地方債	その他 歳入		
H14	5,502	660	2,944	305	1,096	547	1,320	6,872	3,998
H16	5,369	640	2,426	277	1,056	586	1,490	6,475	3,569
H32	4,170	596	1,720	277	465	288	547	3,893	2,623

単位：百万円

年度	支出								合計
	人件費	扶助費	公債費	物件費	維持 補修費	補助費	普通 建設 事業費	その他 歳出	
H14	1,139	144	784	1,386	134	774	1,828	683	6,872
H16	1,062	181	915	1,308	85	742	1,078	1,103	6,475
H32	630	153	464	364	63	661	595	643	3,573

H14・16の普通建設事業費には、次の特殊な事業費が含まれています。  
<国や道が行う事業(町が一部負担)>

H14	
・国営事業負担金	2.4億円
・道営事業負担金	2.0億円
・商店街近代化事業(補償費)	4.6億円

H16	
・国営事業負担金	2.0億円
・道営事業負担金	2.5億円

町が直接行う建設事業は、概ね6～9億円程度ですが、災害等で増える要素があります。

### (2) 任意協作成 広域行政推計との違い

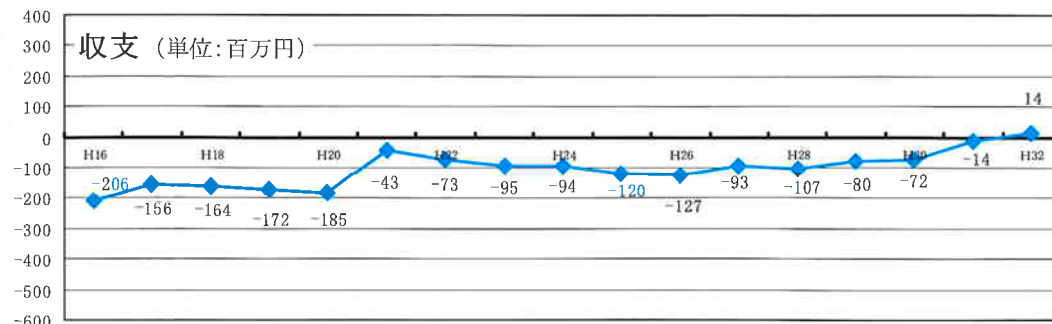
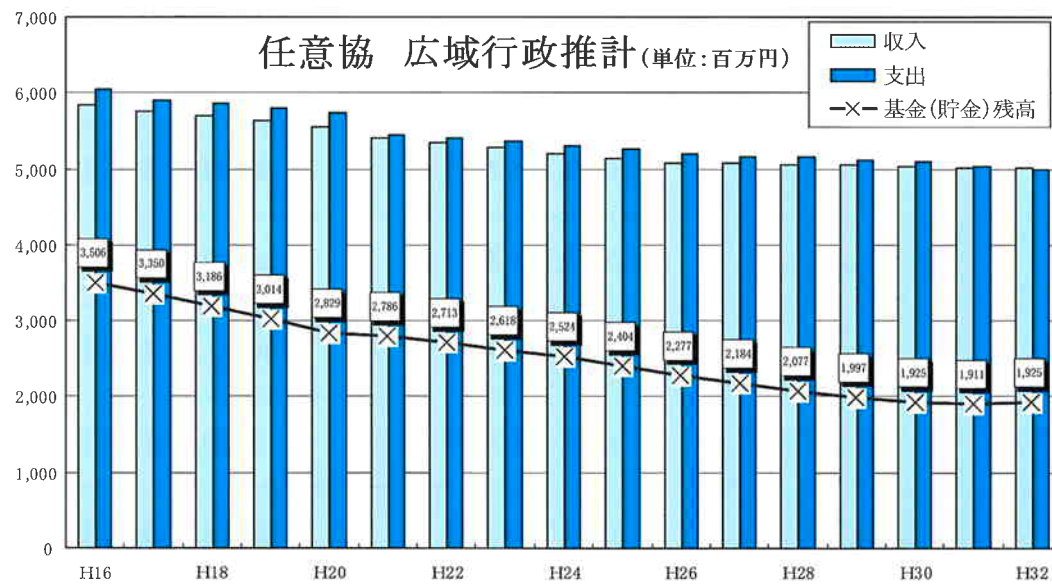
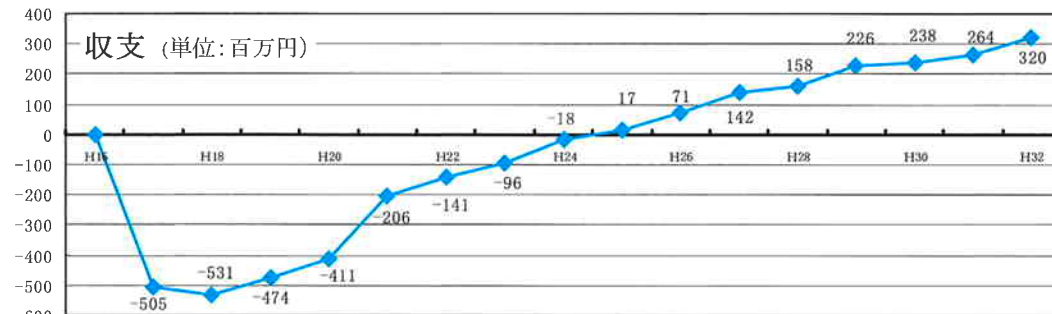
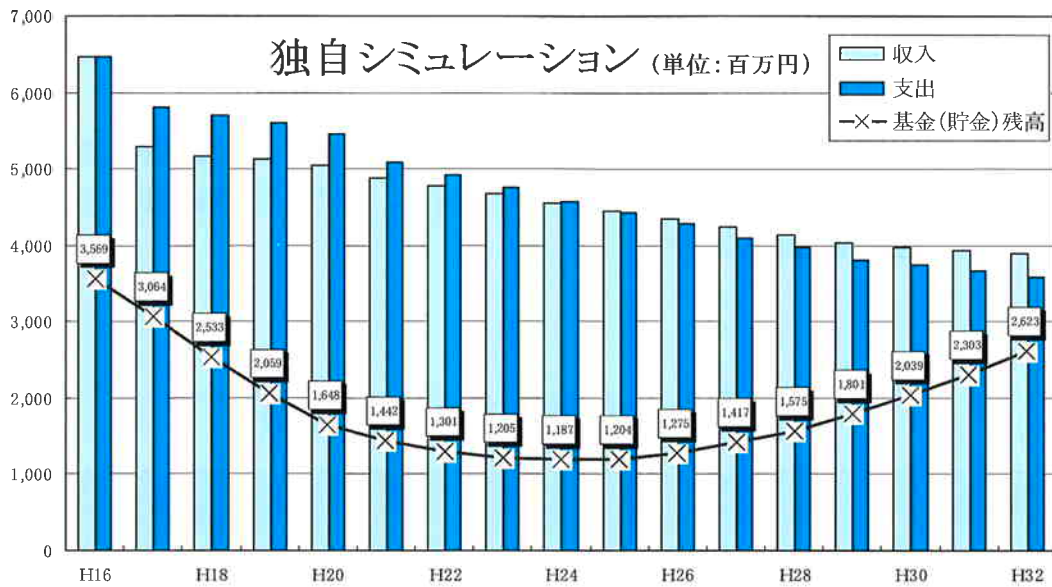
任意協作成の広域行政推計（右の表下段）は、単独推計を基に2町での広域行政効果を見込んでいるものです。（詳細は、任意協資料17ページをご覧ください）

独自シミュレーションとの主な違いは次のとおりです。任意協広域行政推計は、

- 広域行政効果は、人件費の削減に限られています
- 収入の地方交付税額は、多く見込んでいます
- 住民サービスなどは、現状維持を想定しています
- ・・・など 設定条件が違ってきます。

なお、基金（貯金）残高については、特定目的基金を含めています。





### (3) 類似町村との比較

16年後の上士幌町と類似した町村が十勝管内にあります。行政面積は大きく違いますが、基幹産業が農業で人口もほぼ同等といえます。また、財政政規模も独自シミュレーションの金額とほぼ同じです。

#### 十勝管内類似町村との比較

	平成32年度の 上士幌町	現在の 類似町村
人 口	4,170人	4,073人 (平成14年度末住民基本台帳)
行 政 面 積	700.87平方km	296.69平方km
基 金 残 高	26億2,300万円	33億4,000万円
予 算 規 模	普通会計	普通会計 (平成14年度決算)
収 入	38億9,300万円	40億9,985万円
うち地方交付税	約17億2,000万円	約20億0,455万円
支 出	35億7,300万円	40億1,087万円
うち人件費	6億3,000万円	7億0,967万円
うち普通事業建築費	5億9,500万円	6億3,546万円



## 5 2町合併の場合について

任意協による合併の財政推計では、一定の条件のもと収支はプラスとなっています。しかし、地方交付税は合併後15年経過（H32）すると急激に減額となることから、施設や団体等の統廃合を想定しており、合併の場合においても行財政改革の必要があるということを示しています。

公共サービスがどのように変化するかについては、両町の協議が整っていないことから示すことは出来ませんが、使用料・手数料などにおいても全て低い方にあわせることは困難であり、高い方にしなければならない項目も予想されます。

## 6 最後に

現在、全国では多くの市町村が合併問題を協議しています。しかし、協議会から離脱したり、協議会そのものが解散するなど各地で離合集散がおきており、合併の是非を財政的な問題だけで判断することの難しさを物語っています。

北海道では広大な面積に人口が分散しており、合併による行財政の効率化は期待が薄いと言われています。さらに地方交付税に頼る財政力の弱い自治体が多く、合併による財政力の強化も期待できないのが実態です。

しかし、国や地方の財政状況が厳しく、行財政の効率化は避けて通れないことも事実であり、合併を含む新たなまちづくりの方向を判断しなければなりません。

今、合併問題が重要な時期を迎えています。「合併か」「自立か」の選択は財政問題のみにとらわれることなく、私たちが将来、子や孫にどのような地域を残していくべきなのかを考え、あらゆる角度から検討することが重要です。また、お互いの住民が納得し、理解しあうことが大切です。

本町は、昨年9月に士幌町と任意合併協議会を設立し、合併ありきではなく、広域行政による自立も含めた検討を進めてきました。

今回お配りした任意合併協議会が作成した資料と本町が独自で作成した本資料を参考にしていただき、将来に禍根を残すことのないように、みなさんと共に議論を深めたいと思います。

## ● 懇談会開催のお知らせ ●

町民のみなさんとともに市町村合併問題を考えたいと思います。

開催予定は以下のとおりです。

対象地区に関わらず自由に参加できますので、都合の良い開催日にご参加くださいますようお願いいたします。

なお、この冊子と士幌町・上士幌町任意合併協議会の資料を懇談会の際にご持参いただきますよう、よろしくお願いいたします。

### 懇談会日程表

	開催日	時間	対象地区名	会場
第1回	4月9日(金)	19:00~21:00	1区~8区	生涯学習センター 202号室
第2回	4月12日(月)	19:00~21:00	北居辺	北居辺コミュニティセンター
第3回	4月13日(火)	13:30~15:30	東居辺	東居辺コミュニティセンター
第4回		19:00~21:00	北門	北門コミュニティセンター
第5回	4月15日(木)	19:00~21:00	糠平	糠平文化ホール第1研修室
第6回	4月19日(月)	13:30~15:30	勢多	勢多自治会館
第7回		19:00~21:00	上音更	上音更コミュニティセンター
第8回	4月22日(木)	19:00~21:00	萩ヶ岡、清水谷	萩ヶ岡コミュニティセンター
第9回	4月23日(金)	19:00~21:00	9区~17区	生涯学習センター 202号室

ご意見・ご質問については、  
上士幌町役場 企画課までお申し出下さい。

☎ 080-1492 北海道河東郡上士幌町5区  
TEL 01564-2-2111(内線263・264)  
FAX 01564-2-4637  
E-mail kikakuka@town.kamishihoro.hokkaido.jp

平成16年3月25日 発行